

法人名 特定非営利活動法人 チーム東松山

事業計画書

事業名	「被災地」をつなぐ「復興」リノベーション支援事業
種類	(1) SDGs 推進事業 (人間 豊かさ 地球 平和 パートナースhip) (2) 自立促進事業 (人間 豊かさ 地球 平和 パートナースhip)
1. 事業の目的	<p>令和元年東日本台風から2年半が過ぎ、被災住民の生活再建は進みつつあるものの、地域コミュニティの再生が大きな課題となっている。600世帯を超える床上浸水の被害があった東松山市の「被災地」では孤立する住民や心労や将来への不安感が高まるなど、「心のケア」が必要な方々が少なくない。「早俣」と「葛袋」の二地区では、住宅再建・リフォーム等の復旧が進み、被災者自らが「つながり」をキーワードに活動をはじめた。</p> <p>東松山市の早俣地区では、被災住民が地域コミュニティの再生をめざして昨年度任意団体（「て to て」）を立ち上げ、納屋をリノベーションして人が集えるカフェを開きたいと活動を始めた。それに呼応して災害ボランティアつながりで明治大学建築学科の学生たち（「ひととば」）と大東文化大学防災サークル（STERA）の学生たちがこの地に集まり、リノベーション事業を協働で開始することになった。</p> <p>また、葛袋地区では、被災した子育てサークル宅（子育て子育て応援団ポラリス）にて宮城県東松島市あおい地区住民との交流が始まり、地域再生の拠点として機能しはじめている。</p> <p>今回、行政（東松山市危機管理防災課）や災害ボランティアセンターを主宰した東松山市社会福祉協議会とのパートナーシップを活かし、両「被災地」をつなげ、他地区のモデルともなるような地域コミュニティ再生の活動を展開し、住民が目指す「復興」を後押ししたい。</p>
2. 事業の内容	<p>(1) 早俣地区でのリノベーションカフェ支援事業</p> <p>「全壊」地区にある早俣の中心地にある古民家納屋をリノベーションし人々が集えるカフェとして地域コミュニティ再生の拠点としたい。</p> <p>① リノベーション体験ワークショップの開催</p> <p>明治大学建築学科の学生たちによるワークショップを開催し、実際のリノベーション（物置の増設と二階スペースのリフォーム）作業を集まった方々に体験してもらう。</p> <p>古い物件を活かして人々が集うスペースをどう作ったら良いのか、また、実際の作業（大工仕事、塗装作業など）を体験することでリノベーションの楽しさや意義を体感してもらう。</p>



早俣地区で被災した全世界帯をケアした被災者である千代田さん。天井部分まで水没した納屋を人が集うカフェにしたいと活動を始めた。

写真下、奥が母屋。手前が納屋。農業機械を納めるための物置を増設し、二階スペースの内装をリノベーションする予定。

② 令和元年東日本台風の体験についての「語り部」カフェ

早俣地区での被災体験を当事者に語っていただき、どこでも大災害が起こる事実とその災害のために個人・地域は何をすべきか等、被災体験から防災意識向上のための「語り部」カフェを開催する。

③ 都幾川源流部の森林見学ツアーと製材ワークショップ

氾濫した都幾川の源流部を訪れ、河川上流の森林を見学し、森を守り活かすための技術として、製材作業を見学する。また、製材した木材をリノベーション作業で活用し、河川上下流のつながり（流域防災）を促進する。

(2) 葛袋地区での防災キャンプ体験事業

「大規模半壊」「半壊」規模での被災にあった葛袋地区にて、大東文化大学防災サークルの学生たちの力を借りて、災害時に必要な生活スキルを体感してもらうため、小中学生からも参加できる防災キャンプ（デイキャンプ）を開催する。

(3) 宮城県東松島市と早俣・葛袋をつなぐ交流事業

東日本大震災の被災地、宮城県東松島市の市民（2グループ計4名）を招聘し、令和元年東日本台風の被災二地区の住民との交流事業を行う。

昨年度、東松島市から若き語り部を招いた講演会、また、東松山市で被災した住民の東松島市訪問という事業（令和3年度埼玉県NPO活動サポート事業）を踏まえ、東松島市と被災二地区の住民の交流事業を開催することで、被災後孤立しがちな二地区の被災者の方々の「誰一人取り残さない」ための活動を行う。

以上、上記事業については、東松山市と東松山市社会福祉協議会との協働により実施し、SDGsモデル事業をめざす。

<p>3. 実施計画</p>	<p>(1) 早侯地区でのリノベーションカフェ支援事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ① リノベーション体験ワークショップの開催 全 10 回 ② 令和元年東日本台風の体験についての「語り部」カフェ 3 回 ③ 都幾川源流部の森林見学ツアーと製材ワークショップ 1 回 <p>(2) 葛袋地区での防災キャンプ体験事業 1 回</p> <p>(3) 宮城県東松島市と早侯・葛袋をつなぐ交流事業 2 回</p> <p>○スケジュール</p> <table border="1" data-bbox="464 479 1319 875"> <thead> <tr> <th>時期</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>7 月</td> <td>リノベーション体験ワークショップ 3 回</td> </tr> <tr> <td>8 月</td> <td>リノベーション体験ワークショップ 4 回</td> </tr> <tr> <td>9 月</td> <td>リノベーション体験ワークショップ 3 回</td> </tr> <tr> <td>10 月</td> <td>「語り部」カフェ①／防災キャンプ</td> </tr> <tr> <td>11 月</td> <td>交流事業①宮城県東松島市から 3 名招聘</td> </tr> <tr> <td>12 月</td> <td>「語り部」カフェ②</td> </tr> <tr> <td>1 月</td> <td>交流事業②宮城県東松島市から 1 名招聘</td> </tr> <tr> <td>2 月</td> <td>「語り部」カフェ③</td> </tr> </tbody> </table> <p>○広報計画</p> <p>当事業の内容を紹介するチラシ（A4）10,000 枚を印刷し、二地区および周辺地域に新聞折込を行う。また、東松山市と東松山市社協の協力により、各地区センター、図書館等にチラシを置く。東松山ケーブルテレビに呼びかけ、取材・放映、ケーブルテレビ主催のイベントに出展など行う。</p>	時期		7 月	リノベーション体験ワークショップ 3 回	8 月	リノベーション体験ワークショップ 4 回	9 月	リノベーション体験ワークショップ 3 回	10 月	「語り部」カフェ①／防災キャンプ	11 月	交流事業①宮城県東松島市から 3 名招聘	12 月	「語り部」カフェ②	1 月	交流事業②宮城県東松島市から 1 名招聘	2 月	「語り部」カフェ③
時期																			
7 月	リノベーション体験ワークショップ 3 回																		
8 月	リノベーション体験ワークショップ 4 回																		
9 月	リノベーション体験ワークショップ 3 回																		
10 月	「語り部」カフェ①／防災キャンプ																		
11 月	交流事業①宮城県東松島市から 3 名招聘																		
12 月	「語り部」カフェ②																		
1 月	交流事業②宮城県東松島市から 1 名招聘																		
2 月	「語り部」カフェ③																		
<p>4. 実施体制</p>	<p>主宰 NPO 法人チーム東松山 協働のパートナー</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 早侯地区で被災した住民が立ち上げた任意団体「て to て」 ② 葛袋地区で被災した「子育て子育て応援団ポラリス」 ③ 東松山市危機管理防災課 ④ 東松山市社会福祉協議会 ⑤ 明治大学建築学科学生「ひととば」 ⑥ 大東文化大学防災サークル「STERA」 																		
<p>5. 事業の効果</p>	<p>当法人は災害直後から二地区の災害ボランティア活動を行った経緯もあり、行政（危機管理防災課等）や社会福祉協議会との連携を踏まえて、その任意団体が目指す「つながりの再生」のための活動を支援したいと考えていた。</p> <p>明治大学建築学科の学生たち（「ひととば」）と大東文化大学防災サークル（STERA）の学生たちをこの二地区の被災地につなぎ、早侯ではリノベーション体験活動、葛袋地区では防災キャンプ体験活動を支援することにより、二地区の被災者が目指す「つながりの再生」が実現できるのではないかと期待している。</p> <p>また、今回のリノベーションに当たり、必要な木材を氾濫した都幾川源流部の木材を使うことにより、森林資源と河川環境の関わりについても学習を深め、防災・減災という枠組みを超えて源流部と</p>																		

流域住民の交流を通じて森林と河川という自然環境との「つながり」についても理解を深めたいと思う。

防災キャンプは葛袋地区で被災者支援の拠点でもあった子育てサークル（子育て子育て応援団ポラリス）の敷地内（庭先・畑）をお借りして、防災キャンプ（デイキャンプ）を開催し、地域の子どもたちを中心に災害時にどのような技術や心構えが必要となるか、体験してもらう。防災キャンプは今後、要望があれば県内各市町村に出前事業的に開催できる体制を構築したい。

また、東日本大震災以後、友好都市として交流を深めている宮城県東松島市の被災者（集団移転地区の住民たち2グループ4名予定）を東松山市の二地区に招き、「被災体験」を語り継ぎ、復興のための活動を共有することで、東北と埼玉との「つながり」の深化を図り、この事業を県内他地域での地域共生社会実現のためのモデル事業として進めたいと考えている。

昨年度に続き、東松山市の「被災地」での活動が中心となるが、同じ市内でも普段から交流の少ない二地区を選び、二地区の「被災者」の自発的な取り組みと学生たちの若い力、行政や社協の協力を「つなぐ」ことにより、身近な「災害」に対する防災意識・減災体制の構築という課題を全市的に進めるきっかけとしたい。

また、氾濫した河川の源流部と流域住民の交流を通じて、森林資源と河川環境のつながりを学習することにより、比企郡内での森林資源の活用による森林保護と河川環境への配慮など、より広い視点から自然と私たちの暮らしの「つながり」について提案したい。

東日本大震災の経験を風化させず、大きな災害の被害を受けた「被災者」自らが取り組んだ成果を「つなぐ」ことにより、「被災地復興」とはどのようなものなのか、その可能性を示したい。

さらに、高齢化する集落におけるコミュニティ再生、地域共生社会のモデルとなるように事業を展開し、他地域、他市町村でも活用できるような災害救援のあり方、パートナーシップのあり方を提案したい。

6. 今後どのように事業を継続し発展させるか
※自立促進事業のみ